



環境創出活動に関する行動計画の達成状況報告

2024 年度



ミズノ テクニクス 株式会社

ミズノ環境ビジョン

ミズノグループは、ステークホルダーとの対話・協働と私たちの行動を通じて、地球環境問題に積極的に取り組み、スポーツができる環境を未来につなげるため、持続的な社会と幸福な生活（well-being）の実現を目指します。

ミズノ環境方針

1. 気候変動課題への取り組み

- ・自社から排出する温室効果ガスの排出削減に取り組みます（Scope1,2）
- ・サプライチェーン全体で温室効果ガスの排出削減に取り組みます（Scope3）

2. 循環型社会への貢献

- ・製品・材料などのリサイクルに努めます
- ・水の使用量を削減し、水資源の保全に努めます

3. 環境負荷の低減

- ・化学物質による人や環境・生態系への影響を減らします
- ・事業活動における廃棄物の削減に努めます

4. 社会との共生

- ・環境に関する情報の適切な開示に努めます
- ・地域社会とのコミュニケーションを広げていきます
- ・生物多様性への取り組みを推進します

私たちは、環境関連の法規を遵守し、環境目標を定めて、これからの取り組みを推進していきます

2025 年 7 月 1 日
岐阜県養老郡養老町高田 307-5
ミズノ テクニクス株式会社
代表取締役 寺下 正記

養老町様、岐阜県様、ミズノ テクニクス株式会社の三者で締結し、2023 年 3 月に 6 回目の更新合意をいただきました、「環境創出協定 ～豊かで快適な環境を創出するための協定書～」におきまして、2024 年度（令和 6 年度）の当社活動内容をご報告いたします。

1. 環境創出協定第 4 条に基づく各管理項目の状況

Table 1 環境創出協定第 4 条に基づく各管理項目の達成状況

注：法令が適用されない項目等に関しては「－」を記入する		法令に基づく 規制基準	維持管理 目標値	将来目標値 (目標年：令和7年)	2024年度（令和 6年度）実績
水質汚濁（公共下水道へ排水）	水素イオン濃度（pH）	5～9未満	6.0～8.0	6.3～7.7未満	8.2
	生物化学的酸素要求量（BOD）	300 mg/L未満	100 mg/L未満	60 mg/L未満	67 mg/L
	浮遊物質（SS）	300 mg/L未満	100 mg/L未満	30 mg/L未満	45 mg/L
	n-ヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類）	30 mg/L未満	20 mg/L未満	15 mg/L未満	<1 mg/L
騒音	騒音の大きさ (就業時刻 8:20～17:00)	朝 60 dB以下	－	－	－
		昼 65 dB以下	65 dB以下	62 dB以下	夏季 60.6 dB 冬季 60.0 dB
		夕 60 dB以下	－	－	－
		夜 50 dB以下	－	－	－
産業廃棄物	ゼロエミッション活動（リサイクル率）	ゼロエミッション活動を継続実施	98 %以上	99 %以上	98.2 %
	プラスチック廃棄物等	プラ廃棄物等削減活動を継続実施	70 t以下	50 t未満	38.2 t

2024 年度の状況は、工場排水中（公共下水道へ排水）の水素イオン濃度（pH）が維持管理目標値の上限を上回る結果となりました。

原因につきましては現在調査を進めており、今後適切な対応を講じて pH を引き下げるよう努めてまいります。

騒音の大きさは夏季、冬季ともに維持管理目標を下回る結果となりました。今後も引き続き、現在の管理の継続的維持に努めてまいります。

産業廃棄物のプラスチック廃棄物等削減取組みについては、歩留まり等の改善により維持管理目標値、将来目標値に対して大幅に削減することができました。

今後も引き続き、現在の管理の継続的維持に努めるとともに、包装資材及びカーボン素材のマテリアルリサイクルについての研究を進め、産業廃棄物の更なる排出削減を進めてまいります。

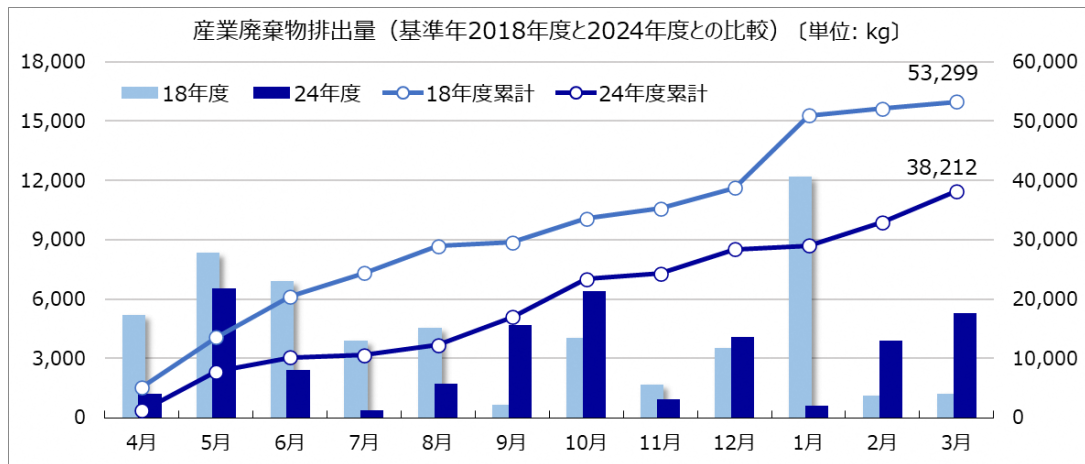


Fig.1 産業廃棄物排出量（基準年 2018 年度と 2024 年度との比較）

2. 温室効果ガス排出量削減について

Table 2 2018 年度以降の温室効果ガス排出量の推移（Scope1+2）

〔t-CO ₂ e〕	2018年度 (基準年)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
温室効果ガス排出量	1,189	1,090	957	1,239	1,263	753	569
2018年度比 増減量	—	▲99	▲232	+50	+74	▲436	▲620
2018年度比 削減率	—	▲8.3%	▲19.5%	+4.2%	+6.2%	▲36.7%	▲52.1%

2024 年度の温室効果ガス排出量（Scope1+2）は 569 t-CO₂e で、2023 年度比で▲184 t-CO₂e（▲24.4 %）の削減、また基準年である 2018 年度比では▲620 t-CO₂e（▲52.1 %）の削減ができました。

これは CO₂ フリー電気（中部電力ミライズ様と購入契約締結／岐阜県産）や、2023 年に導入した太陽光発電システムによる再生可能エネルギーの利用拡大等が、大きな削減効果をもたらしました。

当社は再生可能エネルギーの普及・拡大に貢献し、温室効果ガスの更なる排出削減に努めてまいります。

※「CO₂ フリー電気」とは、環境省および経済産業省によって毎年公表される「電気事業者ごとの基礎排出係数及び調整後排出係数の算出及び公表について（改正された場合は、改正に従う。）」に従いメニュー別排出係数を算定したとき、当該排出係数がゼロとなる電気をいいます。

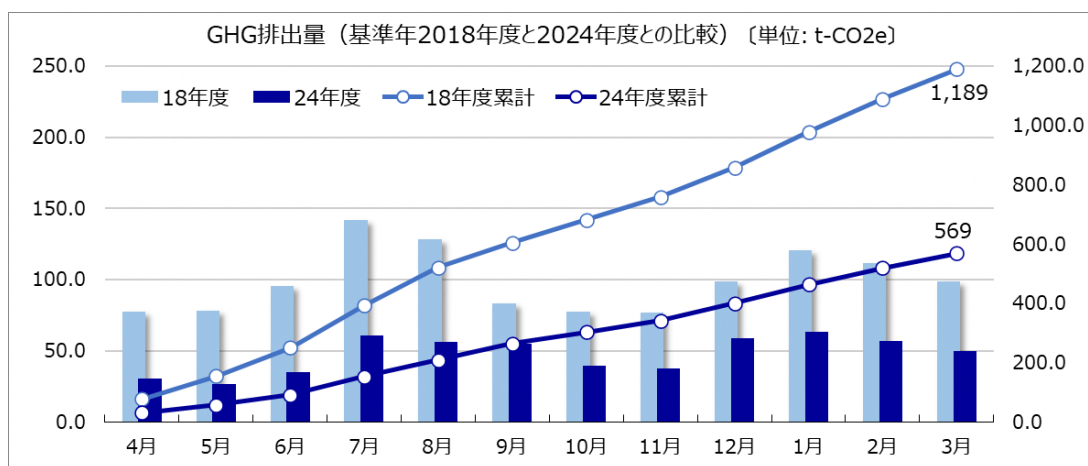


Fig.2 温室効果ガス排出量（基準年 2018 年と 2024 年度との比較）



Fig.3 ぎふ清流 Green でんき及び CO₂ フリー電気購入契約証明書

科学的根拠に基づいた目標設定

ミズノグループの温室効果ガス排出目標が SBTi 認定を取得



ミズノグループは、地球環境保全のために設定した温室効果ガス削減目標について、「SBTi (Science Based Targets initiative) ※1」の認定を取得しました。

※1 CDP、国連グローバル・コンパクト、WRI（世界資源研究所）、WWF（世界自然保護基金）の4機関が2015年に共同で設立した国際的イニシアチブ

ミズノグループは1991年から環境保全活動を展開しており、このたび温室効果ガスの Scope1（自社直接排出）と Scope2（自社間接排出）について、2030年に2018年（基準年）比で50.4%削減、Scope3（他社間接排出）のカテゴリー1（購入した製品・サービス）およびカテゴリー12（販売した製品の廃棄）について、2018年（基準年）比で58.1%削減（付加価値10億円あたり）の目標が科学的根拠に基づいた目標であるとの認定を受けました。

今後、この目標の実現に向けて、省エネルギーや再生エネルギーの活用、製品製造工程の革新、廃棄物削減、リサイクルの推進などの活動を加速し、さらに2050年にはネットゼロの実現を目指します。そして、いつでも、誰もがスポーツを楽しめる地球環境を次世代に引き継ぐことを目指します。

SBTiに認定された温室効果ガス削減 目標値

Scope1, Scope2 : 2030年に2018年比で50.4%削減

Scope3 : 2030年に2018年比で58.1%削減（付加価値10億円あたり）



Fig.4 ミズノグループの環境目標（SBTi 認定取得）

3. エネルギー使用量の削減について

長期環境目標を達成するため、2023年1月、同工場で最大の棟であるゴルフ製造棟に太陽光パネルを設置しました。年間約40万kWを発電し、ゴルフクラブ、野球バット、コンポジット事業等製品の製造工程の電力として利用しています。また、自然災害発生時には非常用電源設備としても機能し、近隣の皆様が一時的にご利用することも可能であり、地域社会への貢献が期待されます。

製造棟および管理棟、製品倉庫の照明につきましては、LED化をほぼ完了しました。

また、社用車はガソリン車からハイブリッド車の低燃費車に順次切り替えているほか、一部に電気自動車を導入して環境への効果を確認しています。社用車には「テレマティクス※」を使用し、車両の運行状況が見える化することで、安全運転への意識付けだけでなく、燃費の改善や温室効果ガス排出量の削減などに役立てています。

※テレマティクス：車両の位置情報・走行距離・速度が管理できるシステム



Fig.5 ゴルフ製造棟（左）とゴルフ製造棟に設置した太陽光パネル

4. コミュニケーション

4-1. 工場周辺の美化清掃活動

毎月第1水曜日に30分間ですが、地域の環境整備及び従業員への環境意識の向上を目的に、工場周辺の美化清掃活動を継続的に実施しています。

これは地域環境の美化に役立つとともに、清掃活動を通じて地域の一員であることを再認識し、近隣の皆様との相互コミュニケーションの場にもなっています。

2024年度は金属ごみやプラスチックごみ、腐朽木等を回収しました。

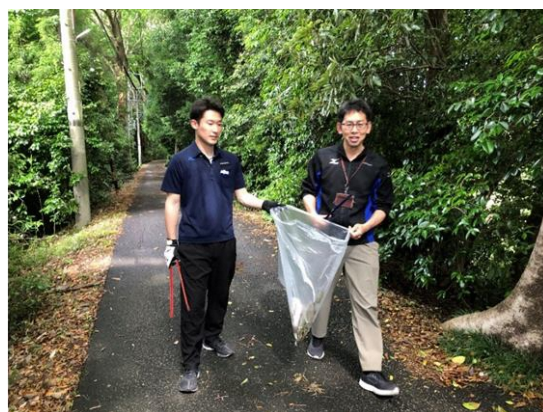


Fig.6 工場周辺の美化清掃活動の様子

4-2. 工場見学の受入れ

2024 年度は近隣にお住まいの方々やクラブチーム、お得意先様など、総計 52 件 896 名様の方にお越しいただきました。ゴルフクラブや野球バットの製造工程の見学や当社の歴史に触れていただくなど、参加者の皆様からは大変ご好評をいただきました。

また小学生以下を対象に、木製バットや野球グラブ皮革の端材を利用したキーホルダー作りを実施し、楽しい 1 日をご家族様と一緒に過ごしていただきました。



Fig.7 工場見学の様子

4-3. メディア取材

TBS テレビ「がっちりマンデー！！」様のメディア取材を実施しました。コンポジット事業カーボン製品にスポットをあてた取材内容で、放送を視聴していただいた多くの皆様から反響をいただきました。